

## 小山企業

### 「埼玉総合物流センター」の24時間稼働を実現

#### 食品メーカーのクロステックセンター業務を受託



24時間化でセンターの稼働率が向上

小山企業(本社・埼玉県戸田市、小山嘉一郎社長)では、同社最大規模の「埼玉総合物流センター」(埼玉県草加市)の機能を拡充し、24時間稼働を実現した。7月から、新たに食品メーカーの夜間対応のクロステックセンターとしての運用を開始。「埼玉総合物流センター」は開設当初から、首都圏および主要都市への共同配送拠点として24時間稼働を想定していたが、今回、新規業務の受託を機にフル稼働が実を結んだ格好だ。

小山企業は2010年2月、ランブウエーを備えたマルチテナント型の物流施設のワンフロア(1万3000平方メートル)を賃借し「埼玉総合物流センター」としてオープンした。外環自動車道を中心に常磐自動車道、東北自動車道、首都高速へのアクセスも良好。首都圏全体をカバーできる立地と24時間稼働可能な全天候対応型セン

ターの機能を生かした事業展開を目指してきた。7月から、食品メーカーのスルー型(TC)・在庫型(DC)センター業務をスタート。各方面から持ち込まれた商品を夕方から夜間にかけてクロステックし、都内向けに出荷するもの。これまで「埼玉総合物流センター」は24時間対応でも、夜間の業務はなかったが、クロステックセンターとして運用が開始されたことにより、センターの稼働率が向上し、収益に貢献する。

昨秋からは、「埼玉総合物流センター」で主要荷主であるアパレル専門店向けのルート配送で共同配送を本格化。大手3PL会社が扱うアパレル製品を同センターに持ち込み、小山企業が扱う製品と積み合わせて店舗に一括納品する。店舗側は1日の納品車両が少なくなり、荷受けを効率化できるため、共配対象メーカーの拡大も視野に入れている。

小山企業では、主要荷主のアパレル店舗へのルート配送をきっかけに運送事業を強化している。固定ドライバーによる高品質な配送や通い箱の提案などで店舗からの信頼を獲得し、受注拡大につながった。小山社長は「モノを届けるところまでが物流の仕事で、倉庫会社として運送の機能を持つことは重要」と強調。大型物流センターと運送事業のシナジー効果も狙う。